



# 国交労組

## みんなで秋季年末闘争をとりくもう

秋季年末闘争では、一時金引き下げをはじめとする21  
人事院勧告を受けたことに対し、日々奮闘する職員へ報  
いる賃金改善のみならず労働条件の改善を求めて、すべ  
ての分会で職場決議を採択し、政府・内閣総理大臣へ送  
付するとりくみをすすめています。長時間労働の是正、  
定員外職員の待遇改善、安心して働き続けることができ  
る定年延長制度、退職手当の改善などこれらの諸要求を  
実現させるため、これまでの現状やとりくむ内容を確認  
していきます。

### 公務員なのに 最賃割れ

10月1日、最低賃金が  
全国で28円以上引き上げ  
られました。この賃上げ  
によって、地域手当を加  
算したとしても、国家公  
務員の高卒初任給が最低  
賃金を下回る職場が、全  
国各地に多数生じてお  
り、その数は、国土交通省  
だけでも150もの事務  
所・出張所に及びます。  
これらの職場に高校新卒  
の職員が配置された場  
合、民間企業であれば違  
法となる事態はきわめて  
深刻な問題です。

一方、先行して8月に  
俸給の改定を見送ると勧  
告をした人事院の姿勢  
は、このような社会情勢  
を軽視するものであり、  
連年に渡る定員削減、慢  
性的な人員不足、さら  
はコロナ関連業務が負荷  
されるなか、感染リスク  
の不安を覚えながらも、  
安全・安心の国土交通行  
政を担ってきた職員の労  
苦に報いるものではありません。  
「国家公務員の賃金引  
き上げは要求しづらい」  
との声があがっているの  
は事実ですが、すべての  
労働者のみならず、最賃  
割れの職場で働くなかま  
のためにも堂々と賃上げ  
を求めていきましょう。

### 昇格改善の ポイント

各々の部門において、  
昇格改善を中心とした当  
局交渉が行われていま  
す。全部門をおとした最  
優先の要求は、事務所の  
機関評価を地方出先機関  
から府県単位機関へと引  
き上げることです。部門  
によっては、支局や事務  
所の評価アップとも記載  
されますが、基本的には  
同義です。これまで国土  
交通労組は一貫して「現  
場力」の強化を求めてお  
り、中央・地方を問わず  
公務・公共サービスを提  
供するうえでは、その重  
みは変わりません。地方  
機関の格付けをあげるこ  
とは、地方機関の重要性  
を認めさせることにはか  
ならず、ひいてはそこに  
働くすべての職員が上位  
級へと引き上げられるこ  
とを意味します。

### 人事評価制度の 問題点

昇格改善のとりくみ  
は、私たちの生活・権利・  
労働条件をまもり、改善  
させるためにも重要なも  
のです。単に「賃金闘争」  
というところだけではな  
く、当局の恣意的差別と  
分断に対峙するとりくみで  
もあります。現在導入さ  
れている「人事評価制  
度」について、労働組合と  
しては、「人が人を正しく  
評価することはできな  
い」ことから反対の立場  
です。私たちの業務を定  
量的に判断することは困  
難であり、とりわけチー  
ムで業務を行う職場にお  
いては、処遇に差を設け  
ることで分断と差別が助  
長し業務自体に悪影響が  
出ることも懸念されま  
す。くわえて、来年には定  
期評価における評価の段  
階の数が、5から6へと  
細分化され、政府はさら



一昨年の中央行動には全国のなかまが集まりました

なる厳格化を  
すすめること  
が目的で  
しています。  
私たちは、  
今年も体制拡充署名に  
とりくむことで、私たち  
のきびしい定員事情を国  
民世論に訴え、国会議員  
をつうじた議員採択をめ  
ざし、大幅増員を勝ちと  
るとりくみをすすめてま  
いります。

### 工夫して職場集会 を開催しよう

コロナ感染拡大は一定  
落ち着いてきたように見  
えますが、まだまだ予断  
を許さない状況が続いて  
います。コロナ禍をきつ  
かけに、職員間のつなが  
りが希薄になっていきま  
す。職場集会の一例とし  
て、大人数で集まること  
が難しい場合には、小さ  
なグループに分け複数回  
の開催を設けたり、換気  
の良い屋外で行うなど、  
職場状況に応じた工夫を  
凝らし、みんなで考え、み  
んなで決めて、みんなで  
行動を実践していきま  
しょう。

## みんなで考え みんなで決めて みんなで行動

「無駄を省  
く」選挙活動  
などにおいて  
よく聞く言葉  
だ。たしかに  
必要のないものを省くこ  
とはそれなりに意味があ  
る。そういった議論の中  
で削減されているものと  
して、研究機関の研究開  
発費や、医療機関の病床  
数などがある。しかし、無  
駄とされたものは、本当  
に必要なものだったの  
だろうか▼研究機関の  
研究開発費については、  
研究者が国内で思うよう  
な研究ができなくなった  
結果、優秀な人材が国外  
に活躍の場を移し、国内  
の研究・開発能力の低下  
につながっている。医療  
機関の病床数については、  
「コロナ禍のなかで、病  
床数の不足をまねき、感  
染者の自宅療養、通常医  
療についても入院が困難  
になるなどの影響が出た  
のは記憶に新しいところ  
だ。こうしてみると、近視  
眼的な視点で無駄として  
切り捨てたものが、時を  
経ることに多くの影響を  
与えていることがわかる  
▼組合活動についても同  
様のことがいえるのでは  
ないか。すべての組合活  
動は互いに影響を与え、  
全体だけでなく個々の活  
動の結果にも変化がで  
る。引き続き目先にとら  
われず、すべての活動に  
積極的にとりくんでいき  
ませんか。(H)

